

紀

要

第 18 号

2005. 3

滋賀県文化財保護協会  
法人

# 近江地域出土の古代銭貨

辻川 哲朗

## 1. はじめに

平成15年度、野洲市大篠原に所在する夕日ヶ丘北遺跡において実施した発掘調査において、奈良時代後半頃に位置づけられる和同開珎を埋納した地鎮遺構を検出した。本稿は、当該遺跡の報告書作成に向けて、和同開珎をはじめとする古代銭貨の実態を明らかにするため、その基礎作業として、近江地域（滋賀県）内での古代銭貨出土事例を集成し、それより見いだせる諸傾向と派生する諸問題について述べることを目的とする。

近江地域内の出土事例については、榮原永遠男氏による全国規模の集成作業が実施されたなかで、滋賀県についてまとめられた（榮原1993）。その後、出土銭貨研究会により、全国規模の集成作業がなされ、滋賀県についても坂田孝彦氏が担当され、榮原氏の集成に基づき、新出事例を追加されているところである（坂田2002）。しかしながら、それ以降も出土事例が増加しつつあるほか、榮原・坂田両氏の集成から漏れた事例も散見されたため、再度集成作業を行う意味があると考えた。そこで、今回は両氏の業績に依拠しつつ、遺漏事例を検索するとともに、可能な限り、個々の事例について再検討を加えるように心がけた。

## 2. 近江地域の古代銭貨出土事例

**出土点数** 2004年12月現在、少なくとも91遺跡から古代銭貨が2,793点枚以上出土している（表1）。ただ、今回の集成作業においても、出土事例の全てを網羅しえたとはいいがたく、また個々事例についても十分精査しきれなかった。そのため上記の数値はあくまで暫定的なもので、今後変動する余地を残している。また出土事例のなかには、古代銭貨の出土を知りうるものの銭種ごとの枚数が不明な例や、鏽着のために枚数や銭種を確定できない例があった。今回の集成では、こうした例のうち、枚数が不明なものについては、最小数として1枚のみを

カウントするにとどめたので、上記の数値は最小数を示すことになる。

2002年5月時点での全国的な集成（出土銭貨研究会編2002）では、約13,866枚の古代銭貨の出土が明らかとなっている。このうち、地域別の出土点数を比較すると、近江（滋賀県）は大和（4,576枚）について全国第2位の出土点数となる。ちなみに、それ以下には、山城（2,036枚）・加賀（980枚）・摂津（732枚）・和泉（552枚）・河内（498枚）・筑前（261枚）・伊勢（245枚）が続く。能登・紀伊・備中が100枚台であるのを除くと、それ以外の諸地域はいずれも数十枚から数枚程度の出土点数であり、現時点において古代銭貨の出土が知られていない地域もある。大和・山城・近江には、いずれも古代に都城が設置されており、政治・経済・文化の中心を担った地域といえる。さらに、摂津・和泉・河内はこれらの地域に隣接する畿内地域であり、これら畿内とその周辺地域に古代銭貨が集中していた一おそらくは、流通・普及していたことを如実に示すものである。

**銭種ごとの出土傾向** 出土点数でみると、銅銭では和同開珎が最も多く、神功開寶、隆平永寶がそれに続く。平安時代の諸銭は乾元大寶が最も多く、延喜通寶、貞観永寶、続益神寶、富壽神寶、長年大寶の順に続くが、寛平大寶と承和昌寶が最も少ない。これら以外の和同開珎銀銭・富本銭は出土例がないが、無文銀銭が17枚出土していることは注目される。こうした出土傾向は、全国での出土傾向とおおむね合致するものである（図1）。

**銭種の組み合わせ** 一時の行為により埋納された事例—具体的には、後述する埋納遺構や墓の例に基づいて、銭種の組み合わせの傾向をみてもみると、次の諸点を看取することができる（図2）。

①和同開珎銅銭・萬年通寶・神功開寶・隆平永寶は4者が共伴する。

②8世紀の諸銭は9・10世紀の諸銭と基本的に共







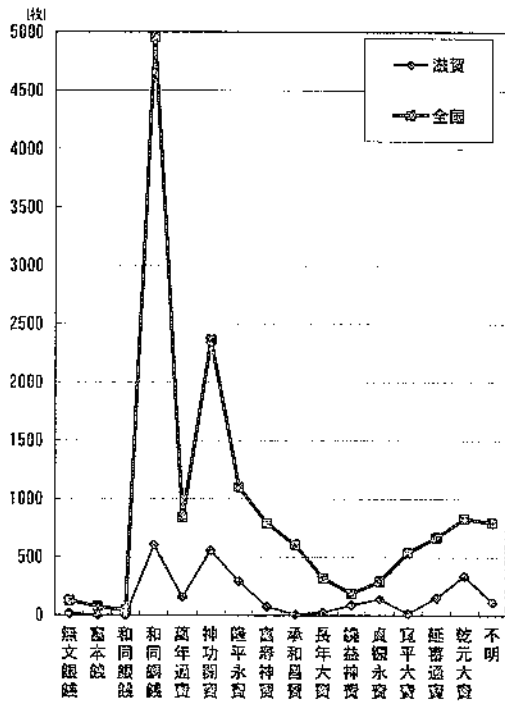


図1 錢種別の出土傾向

伴しない。ただし、大津市平尾山遺跡例では、隆平永寶と延喜通寶が共伴したという。しかしながら、この事例は正式な発掘調査を経たものではなく、両者の共伴には疑問が残ると考えている。

③富壽神寶から繞益神寶までの諸錢は単一錢種のみ出土例である。

④寛平大寶から乾元大寶までの諸錢は前後の錢種との共伴例がある。

以上から、奈良時代から平安時代初めごろの諸錢は併行して流通していたこと、それ以降の諸錢種はおおむね新錢が出現すると次第に旧錢に取って代わっていたという傾向を読み取ることができよう。

**出土事例の分析** 滋賀県内の出土事例をもとに、古代錢貨がどのような場所から、どのように出土するのか、そして、なぜ地中に埋没したのか、これらの問題について整理してみたい。

**遺跡** まず、滋賀県内で古代錢貨が出土する場所(遺跡)のなかに、確実な生産地は確認できていない。『続日本紀』和銅元年7月26日条には、「近江国に銅錢を鑄せしむ。」との記載があり、和同開珎銅錢を近江国に鑄造させたことがわかる。この鑄錢地について、大津市鑄物遺跡が想定されることがある(中川1926)。しかしながら、現在のところ、明確な鑄

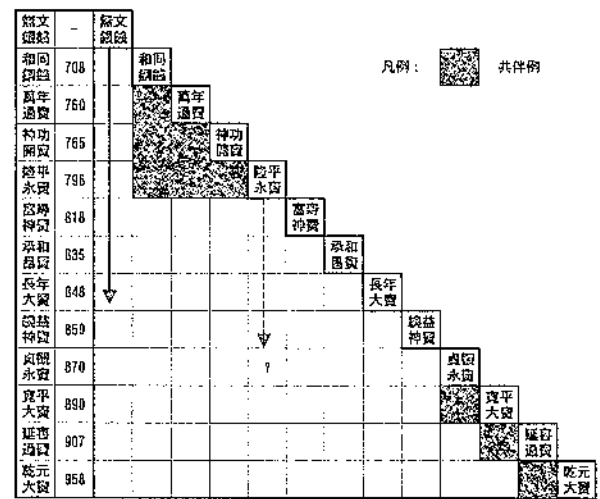


図2 滋賀県内出土古代錢貨における錢種の共伴関係

錢関連遺構・遺物の出土はなく、積極的に評価しがたい。

**遺構** つぎに、古代錢貨の出土遺構については、次のように分類することができる。

#### A. 埋納遺構

地面に穴を掘り、その中に錢貨を埋納した例である。錢貨は直接穴の中に入れたもの、土器に納められて出土する場合、土師器杯皿とともに出土する例などがある。これらは周辺の遺構との関係から、以下の3類に分類することができる。

- 1類：建物を構成する柱穴の中に埋納されたもの。
- 2類：周辺に同時期の建物が存在するもの。
- 3類：単独で存在するもの。

ただし、3類の場合、調査範囲が限定されていることを考慮すると、今後周辺で建物が発見される可能性も否定できず、2類に含まれる余地を残している。

1類は無文銀錢1枚を柱穴に埋納していた甲良町尼子西遺跡の例をあげることができる。

2類の該当例は最も多いが、近年の調査例として冒頭に述べた野洲市夕日ヶ丘北遺跡の事例をあげておきたい。8世紀後半頃の掘立柱建物群に近接して和同開珎を埋納した埋納遺構2基が確認された。埋納遺構の1基には和同開珎53枚以上を、もう1基に

は7枚程度をそれぞれ収めていた。さらに、周囲からは須恵器杯のなかにガラス玉と丸石3点をいれた埋納遺構も検出されている。

3類の該当例としては、今津町弘川佃遺跡例や日野町宮ノ前遺跡例がある。弘川佃遺跡では、乾元通寶数百枚を埋納した土師器小甕が2基確認されたが、近接する範囲には同時期の建物は見つかっていない。宮ノ前遺跡では、土師器甕の中に和同開珎100枚を収め、土師器皿で蓋をして土坑状の落込みにいれた埋納遺構が発見されているが、近接する同時期の建物は確認できていない。

こうした埋納遺構とした諸事例のなかで、建物を構成する柱穴から銭が出土する1類は、その建物に伴う地鎮例と見ることができる。また、周辺に建物が存在する2類の場合は、周辺の特定の建物、あるいは宅地全体を対象とした地鎮例と考えられる。ただし、胞衣（胎盤）を土器等に納め、建物の周辺（戸口など）に埋納した胞衣埋納遺構でも銭が入れられ、2類の中に胞衣埋納遺構が含まれる可能性が残る。3類は、上述したように、調査範囲が限定されているために、今後周辺で建物が検出される可能性を残すことから、2類に含まれる可能性もあるが、一定範囲の土地開発に伴う地鎮例とみなすことも可能であろう。

### B. 寺院関連埋納遺構

大津市穴太廃寺と大津市崇福寺跡の事例がある。穴太廃寺では、再建講堂須弥壇西端床面で神功開寶1枚が、講堂基壇東南隅の化粧石下から和同開珎5枚がそれぞれ出土した。崇福寺では、寺域の各所で銭貨の出土がみられる。塔址では、塔心礎に設けられた舍利孔から、金銀銅製の舍利容器とともに無文銀銭12枚が発見されている。金堂址では、内陣の東端付近の地下に2箇所に分かれて和同開珎16枚・萬年通寶9枚・神功開寶82枚が出土した。基壇の造成中に埋納されたものと考えられる。弥勒堂址付近からは、乾元大寶120枚と粉殻を入れた須恵器壺が基壇南側付近で出土しており、意図的な埋納とみなしうる。これら諸事例のうち、少なくとも崇福寺跡の弥勒堂址例・金堂址例、穴太廃寺講堂例については、地鎮のために銭を埋納したと考えられる。奈良時代の仏教寺院の地鎮の典拠とされ、仏堂建立時

の地鎮の儀礼作法が記されている仏典『仏説陀羅尼集經』によると、儀式の場の特定の場所に、七宝と五穀を小さな穴に埋めるという(森1984・1994)。崇福寺跡の弥勒堂の基壇から出土した粉殻と銭を埋納した壺もこうした例と関連すると思われる。また、崇福寺跡の金堂址の例や穴太廃寺の例のように基壇を造る過程で銭を埋納する例は、大和の古代寺院において同様の例がある。

### C. 墓

多くは骨蔵器として須恵器壺を用い、それとともに銭貨を埋納している。事例の大半は不時発見によるもので、正式な発掘調査を経ておらず、銭貨と骨蔵器との位置関係は不明である。死者への副葬品、あるいは墓地としての使用とそれに伴う現状変更に対する土地神への支払いとして銭貨を埋納したものと考えられる(小林1995)。

### D. 井戸

草津市矢倉口遺跡SE06では素掘り井戸の底面付近に須恵器壺が置かれ、その下部から和同開珎・萬年通寶・神功開寶が合わせて20枚出土した。井戸を掘削したさいに銭等を埋納したと考えられる。また、矢倉口遺跡SE05では素掘り井戸の埋土の中ほどから富壽神寶1点が出土した。大津市野畑遺跡SE004では、井桁組の井戸の掘形から和同開珎5枚が、埋土中から和同開珎1枚が出土した。草津市中兵庫遺跡土坑169とされる井戸では、井戸枠の裏込めから和同開珎1枚が出土している。これらは、井戸構築時の地鎮、あるいは浄水確保を水神に祈願して埋納されたものと考えられる。

### E. 湖底

琵琶湖や周辺の内湖の湖底から出土する事例である。安土町・能登川町大中の湖南遺跡では、隆平永寶104枚がまとまって出土しているほか、多種類の古代銭貨の出土が見られる。近江八幡市沖ノ島赤鼻湖底遺跡では、和同開珎・萬年通寶・神功開寶が400数十枚以上(約800枚出土?)の出土が知られる。彦根市松原内湖遺跡では、萬年通寶・神功開寶48枚がまとまって出土した。大津市浮御堂遺跡でも、総数6枚ながら複数種類の古代銭貨が出土した。湖底出土事例に準ずるものとして、瀬田川底の大津市唐橋遺跡の例がある。勢田橋の橋脚基部が検出さ

れており、その周辺から多数かつ複数種の錢貨の出土をみている。これら湖底出土例の場合、埋納遺構のように地中に埋納用の穴を掘るといった明確な意図を見出せないのが、意図的な湖中への投棄なのか、偶発的に湖中へ落としてしまったのかを判別することは難しい。しかし、大中の湖南遺跡例や唐橋遺跡例のような多種類かつ多量の錢が出土する事例は、偶発的な出来事が特定の場所で長期間にわたって発生した結果とは想定し難く、錢を用いた祭祀が何度も継続して行われた痕跡とみるほうがよい。沖ノ島赤鼻湖底遺跡例・松原内湖遺跡例のようにかなりの量に及ぶ錢の出土例も意図的な湖中への投棄を想定したほうが妥当であろう。以上から、こうした湖底からの出土事例の中には、琵琶湖もしくは内湖での祭祀行為により湖中へ投棄された事例があると考えている。

#### F. 河川・溝

いずれも数枚程度の出土であり、意図的に埋納されたのか、偶発的理由で遺失したものか、あるいは、それらが水流等により二次的に移動されたものなのか、出土状況から判別することは困難な例が多く、ここでは判断を保留しておきたい。

#### G. その他

包含層や地表面で採集されたものである。また、古墳時代後期から終末期の横穴式石室墳から錢貨が出土した例がある。古墳の築造は錢貨の時期よりも遡るものであり、古墳周辺での後世の活動痕跡とみられる。また、古墳への祭祀が後世まで継続していた可能性もあろう。大津市長尾遺跡では、梵鐘鑄造遺構から熱により変形した神功開寶と隆平永寶が出

土している。梵鐘の鑄造原料として転用された可能性がある。

### 3. まとめ

以上、近江地域の古代錢貨出土事例を集成し、それらを出土遺跡・遺構・出土状況などの面からいくつかの類型に分け、それらの埋納の背景について述べてきた。その結果、近江地域の出土事例数は、全国的にみても突出した数量であり、古代の近江地域において、錢貨がかなり普及し、流通していたことが改めて認識できた。また、出土事例のなかには、偶発的要因で地中に埋まった例や二次的な移動など意図的な埋納とみなしがたい例も存在するが、それ以外の事例については、意図的な埋納と考えることができた。さらに、それら意図的な埋納の多くは、地鎮をはじめとして、土地神・井戸神・水神など、神々への奉げものであったと考えられた。神へ願いを聞き届けてもらうために、その代償として貨幣をはじめとする財物を奉納すること、これは神との交換行為であるといえよう。出土した古代錢貨は切なる願いを胸に、神々との交換をはかる古代人の姿を物語っている。

先述したように今回の集成はもとより完全とはいえないものであり、今後も集成作業を継続し、機会を見て改めて報告することにしたい。

なお、本稿は滋賀県埋蔵文化財センター研究会において行った口頭発表「古代の錢」を修正加筆したものである。

(つじかわ てつろう：企画調査課 主任技師)

#### 参考文献 (50音順)

- 出土錢貨研究会編 (2000) 『畿内・七道からみた古代錢貨』金子裕之 (1998) 「都をめぐるまつり」、金子編『日本の信仰遺跡』雄山閣  
柴原永遠男 (1993) 『日本古代錢貨流通史の研究』塙書房  
柴原永遠男 (1998) 「錢貨の流通」、田中 琢・金関恕編『古代史の論点3 都市と工業流通』小学館  
東野治之 (1997) 『貨幣の日本史』(朝日選書574) 朝日新聞社  
永井久美男 (1996) 『日本出土錢総覧 1996年度版』兵庫県埋蔵線調査会  
藤井一二 (1991) 『和同開珎』(中公新書1011) 中央公論社

- 森 郁夫 (1998) 「地を鎮めるまつり」、金子裕之編『日本の信仰遺跡』雄山閣  
国立歴史民俗博物館編 (1997) 『お金の玉手箱—錢貨の列島2000年史—』(企画展示解説図録)  
国立歴史民俗博物館編 (1998) 『歴博フォーラムお金の不思議—貨幣の歴史学—』山川出版社  
小林義孝 (1995) 「古代火葬墓における錢貨の出土状況」『摂河泉文化資料』44、摂河泉文庫

#### 遺跡典拠文献 (50音順)

- 青山 均・福田 敬 (1992) 『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う上高砂遺跡発掘調査報告書』(大津市理



- 蔵文化財調査報告書(20) 大津市教育委員会  
 青山 均・福田 敬・吉水真彦(2002)『大津市南消防署・晴嵐保育園建設に伴う石山国分遺跡発掘調査報告書』(大津市埋蔵文化財調査報告書(33)) 大津市教育委員会
- 雨森智美(1999)「高野遺跡」『1980~1982年度栗 東町埋蔵文化財発掘調査資料集』栗東町教育委員会・財団法人栗東町文化体育振興事業団
- 伊藤 潔(2003)『福満寺遺跡・大戊亥遺跡発掘調査報告書』(長浜市埋蔵文化財調査資料第21集) 長浜市教育委員会
- 稲葉隆宣(1996)『北郷里小遺跡 上寺地遺跡』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXIII-1) 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 岩崎 茂(1988)『須弥寺遺跡発掘調査報告書』(守山市文化財調査報告書第29冊) 守山市教育委員会
- 伊庭 功(2004)「2-4 史跡大中の湖南遺跡」『緊急雇用創出特別対策事業に伴う出土文化財資料化収納業務報告書1』滋賀県教育委員会・財団法人 滋賀県文化財保護協会
- 植田文雄(1988)『斗西遺跡』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第10集) 能登川町教育委員会
- 植田文雄(1993)『斗西遺跡(2次調査)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集) 能登川町教育委員会
- 植田文雄(1993)『斗西遺跡(3次調査)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第31集) 能登川町教育委員会
- 内田保之(1996)『尼子南遺跡2 尼子西遺跡1』(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXIII-4) 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 内田保之(2004)「無文銀銭の流通と埋納」『埋納された古代銭貨 無文銀銭と皇朝十二銭』(2004 年度栗東市出土文化財センター調査研究報告会資料)
- 大津市教育委員会編(1959)『南滋賀遺跡調査概要』
- 大沼芳幸・中村健二(1992)『唐橋遺跡』(瀬田川浸漕工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書II) 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 大沼芳幸・奈良俊哉(1994)『主要地方道大津・能登川・長浜線改良工事に伴う加茂遺跡・ノ一坪遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 大沼芳幸・八百谷圭介(2002)『史跡近江国庁跡附惣山遺跡・青江遺跡調査整備事業報告書I』 滋賀県教育委員会
- 大橋信弥(1988)『県道片岡栗東線特殊改良第1種工事に伴う芦浦遺跡発掘調査報告書II』 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 大橋信弥・山崎秀二・谷口 徹・辻 広志(1980)『服部遺跡発掘調査概報』 守山市・守山市教育委員会
- 大橋信弥・谷口智樹・平井寿一・大崎隆志(1987)『矢倉口遺跡発掘調査報告書』(国道1号京滋バイパス関連遺跡発掘調査報告書第3冊) 滋賀県教育委員会・草津市教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 大橋清三(不明)『瀬田風土誌(14) 鈔物町』『清流』 瀬田町文化協会
- 小熊秀明(1987)『中畑田遺跡発掘調査概要報告書』(志賀町埋蔵文化財調査報告書第1集) 志賀町教育委員会
- 尾崎好則(1984)「浮御堂遺跡発掘調査」、滋賀総合 研究所編『びわ湖と埋文』水資源開発公団琵琶湖 開発事業建設部
- 勝見孝彦(1994)「滋賀県内の皇朝十二銭の出土傾向」『出土銭貨』1、出土銭貨研究会
- 葛野泰樹・日永伊久男・中川正人(1985)「蒲生郡日野町宮ノ前遺跡」『ほ場整備関係遺跡発掘調査 報告書』Z-4、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 葛原秀雄(2004)「埋納された多量の乾元大寶 高島郡今津町弘川側遺跡」『埋納された古代銭貨 無文銀銭と皇朝十二銭』(2004年度栗東市出土文化財センター調査研究報告会資料)
- 黒崎 直(1980)「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集VI』(奈良国立文化財研究所学報第38冊) 奈良国立文化財研究所
- 近藤 広(1990)「2) 特殊遺物について」、平井寿一・近藤広・雨森智美・佐伯英樹・木村元浩『岡遺跡発掘調査報告書』栗東町教育委員会・財団法人栗東町文化体育振興事業団、p93
- 坂梨咲子(2002)「301、安土町大中の湖南遺跡の調査について」『滋賀文化財だより』277、財団法人滋賀県文化財保護協会
- 佐藤宗男(1968)「大中の湖南遺跡出土の皇朝十二銭について」『滋賀文化財研究所月報』4、滋賀文化財研究所
- 佐伯英樹(1992)「40.岡遺跡」『栗東町埋蔵文化財発掘調査1991年度年報』財団法人栗東町文化体育振興事業団
- 佐伯英樹(2004)「栗東市小平井庵寺の調査と無文銀銭」『埋納された古代銭貨 無文銀銭と皇朝十二銭』(2004年度栗東市出土文化財センター調査研究報告会資料)
- 柴原永遠男(1993b)「日本古代出土銭貨一覧表」『日本古代銭貨流通史の研究』 塙書房
- 坂田孝彦(2000)「近江国」出土銭貨研究会北陸ブロック編『畿内・七道からみた古代銭貨』 出土銭貨研究会
- 坂田孝彦(2004)『観音寺城下町遺跡発掘調査報告書』(安土町埋蔵文化財調査報告書第42集) 安土町教育委員会
- 滋賀県教育委員会編(1959)『滋賀県遺跡目録』
- 滋賀県教育委員会編(1966)『滋賀県遺跡目録(第2輯)』
- 滋賀県史蹟名勝天然記念物調査会(1936)「和同開珎出土地」『滋賀県史蹟名勝天然記念物概要』
- 滋賀県埋蔵文化財センター編(2001)「古代の港湾施設がみつかる」『滋賀埋文ニュース』254
- 滋賀県埋蔵文化財センター編(2004a)「湖西の大規模複合遺跡」『滋賀埋文ニュース』289
- 滋賀県埋蔵文化財センター編(2004b)「大円寺遺跡の調査」『滋賀埋文ニュース』291
- 滋賀県埋蔵文化財センター編(2004c)「両側に側溝を持つ道路遺構を検出」『滋賀埋文ニュース』292

- 滋賀県坂田郡教育会編(1941)『改訂坂田郡志 第1巻』(1971年、名著出版復刊)
- 滋賀県立近江風土記の丘資料館(1976)『常設目録』
- 滋賀県立琵琶湖文化館(1974)『奈良時代の文化』(近江文化史シリーズ第4回展パンフレット)
- 重岡 卓(2005)「金剛寺遺跡・金剛寺城遺跡」『緊急雇用創出特別対策事業に伴う出土文化財資料化収納業務報告書Ⅱ』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 柴田 實(1941)「大津京趾(下)崇福寺趾」『滋賀県史蹟調査報告』10、滋賀県
- 島津知子(2002)『矢倉古墳群第1次発掘調査概要報告書』(草津市文化財調査報告書第45集)草津市教育委員会
- 白井忠雄(1985)「高島郡高島町永田遺跡」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ-8』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 白井順子・横田洋三・宇野優子・高田広司・寿福 滋(1985)「高島郡マキノ町小荒路十寺遺跡」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ-8』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 鈴木公章・柴原永達男・金原正明・金原正子・橋本義則・高橋加奈子『平成5年度遺跡発掘事前総合調査事業にかかる紫香楽宮関連遺跡発掘調査報告』(信楽町文化財報告書第8集)信楽町教育委員会
- 瀬口眞司・中川治美(2002)『木部遺跡Ⅰ』(県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡(VII))滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 多賀町史編さん委員会編(1991)『多賀町史上』多賀町
- 瀧澤武雄・西脇 康編『日本史小百科貨幣』東京堂出版
- 田中久雄(1992)『一般国道161号線(西大津バイパス)建設に伴う太鼓塚遺跡発掘調査報告書』(大津市埋蔵文化財調査報告書(19))大津市教育委員会
- 辻川哲朗(2002)「2-3. 東光寺遺跡」『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 辻川哲朗(2004)「和同開珎による地鎮行為―野洲町夕日ヶ丘北遺跡の事例から―」『埋納された古代銭貨―無文銀銭と皇朝十二銭』(2004年度栗東市出土文化財センター調査研究報告会資料)
- 徳網克己(1994)「第10章 光相寺遺跡第22次発掘調査概要」『平成4年度中主町内遺跡発掘調査年報』(中主町文化財調査報告書第41集)中主町教育委員会
- 徳網克己(1996)「滋賀県中主町出土の皇朝十二銭」『出土銭貨』6、出土銭貨研究会
- 徳網克己(2004)「第3章西河原遺跡第11次発掘調査」『平成15年度中主町内遺跡発掘調査年報』(中主町文化財調査報告書第70集)中主町教育委員会
- 中川泉三(1926)「近江栗太郡發掘の古陶壺」『考古學雜誌』日本考古学会
- 仲川 靖・林 博通・中川正人(2000)『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告Ⅲ』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 仲川 靖・林 博通・中川正人・中條利一郎・松本 嘉代・畑 大介(2001)『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告Ⅳ』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 中村健二・中川治美・三宅 弘・北原 治(2001)『中兵庫遺跡』(一般県道山田・草津線単独改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 中村幸代(2003)「第3章辻町遺跡(2)」『野洲町文化財年報2000』(野洲町文化財資料集2002-2)野洲町教育委員会
- 奈良俊哉・田井中洋介(1995)『浄土寺遺跡・野田代遺跡・風呂流遺跡』(県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅺ-3)滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 西 邦和(1992)『中沢遺跡(第9次)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書第25集)能登川町教育委員会
- 西原雄大(2002)『大戌亥遺跡・鴨田遺跡調査報告書』(長浜市埋蔵文化財調査資料第40集)長浜市教育委員会
- 畑中英二・林 博通(1993)「(1)57-1 地点発掘調査概要」『南滋賀遺跡』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 濱 修他(1998)『赤野井湾遺跡』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2)滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 林 博通(1973)『琵琶湖湖岸・湖底遺跡分布調査概要Ⅰ』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 林 博通(1984)「長尾遺跡の梵鐘鑄造跡」『古代研究』27、元興寺文化財研究所
- 林 博通・三宅 弘・芝池信幸(1994)「大津市野畑遺跡第二次調査報告」『平成14年度滋賀県埋蔵文化財調査年報』滋賀県教育委員会
- 肥後和男(1929)「大津京趾の研究」『滋賀県史蹟調査報告』2、滋賀県保勝会
- 肥後和男(1933a)「錦織町平尾に於ける平安時代の墳墓」『滋賀県史蹟調査報告』5、滋賀県保勝会
- 肥後和男(1933b)「瀬田庵寺趾」『滋賀県史蹟調査報告』5、滋賀県保勝会
- 日永伊久男(1985)「滋賀県下における和同開珎出土遺跡一覧表」(葛野・日永・中川1985に所収)
- 飛田喜功(1965)「滋賀県蒲生郡安土町大中湖畔芦刈遺跡発見隆平永宝銭の調査」『滋賀県文化財資料』3
- 飛田喜功(1969)「大中の湖南遺跡出土の皇朝十二銭について」『滋賀県文化財研究所月報』12
- 藤居 朗(1997)『草津川改修関連遺跡発掘調査概要報告書(XI)』(草津市文化財調査報告書28)草津市教育委員会
- 丸山雄二(1994)「五銖銭をもった人々」『文化財学論集』

- 文化財学論集刊行会
- 丸山竜平・石原道洋・岡本隆子・喜多貞裕・濱 修・古川  
登・渡辺泰子（1984）『日吉・吉住池遺跡発掘調査報告書』  
（県営かんがい排水事業関連発掘調査報告書Ⅱ-2）滋賀県  
教育委員会・八日市市教育委員会・財団法人滋賀県文化財  
保護協会
- 丸山竜平・兼康保明・岡本隆子（1980）『鴨遺跡』（高島町  
歴史民俗叢書2）滋賀県教育委員会・高島町教育委員会・  
財団法人滋賀県文化財保護協会
- 丸山竜平・西田 弘他（1970）『滋賀県文化財調査報告書第  
4冊』滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
- 造酒 豊・横田洋三・平井美典・大崎哲人・田中勝弘・中川  
正人（1988）『横尾山古墳群発掘調査報告書』（一般国道  
1号（京滋バイパス）関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ）滋賀県  
教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 造酒 豊・濱 修（1991）『一般県道野洲中主線改良事業  
に伴う中北遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会・財団  
法人滋賀県文化財保護協会
- 水野正好（1969）『大中の湖南遺跡調査概要』（滋賀県文化  
財調査概要5）滋賀県教育委員会
- 三宅 弘（1988）『北堂遺跡発掘調査報告書』（草津川改修  
事業に伴う発掘調査報告書）滋賀県教育委員会・財団法人  
滋賀県文化財保護協会
- 宮下陸夫（1990）『益須寺遺跡第15次発掘調査報告書』（守  
山市文化財調査報告書第39冊）守山市教育委員会
- 宮崎幹也（1985）『蛇塚遺跡発掘調査報告』『ほ場整備関係  
遺跡発掘調査報告書XI-2』滋賀県教育委員会・財団法人  
滋賀県文化財保護協会
- 山崎秀二（1977）『守山市赤野井遺跡発掘調査報告』『ほ場  
整備関係遺跡発掘調査報告書IV-2』滋賀県教育委員会・  
財団法人滋賀県文化財保護協会
- 山崎秀二（1978）『守山市赤野井遺跡』『昭和五十一年度滋  
賀県文化財調査年報』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県  
文化財保護協会
- 横田洋三（2000）『法光寺遺跡』（ほ場整備関係遺跡発掘調  
査報告書27-1）滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化  
財保護協会
- 吉田秀則・葛野泰樹・浜崎悟司・細川修平・小島孝修（1993）  
『琵琶湖流域下水道彦根長浜処理区東北部浄化センター建  
設に伴う松原内湖遺跡発掘調査報告書1』滋賀県教育委員  
会・財団法人滋賀県文化財保護協会

### 編集後記

紀要第18号をお届けします。今号は7本の原稿を掲載することができました。内容は縄文時代から現代におよび、中でも昭和初期の埋蔵文化財をめぐる状況の一端を明らかにした論考は、古い時代を対象にしている考古学も、現代史から自由ではないということを、改めて考えさせてくれるものです。

この紀要を職員の研究活動の成果として、今後もさらに研鑽を積んでいきたいと考えておりますので、みなさまからの積極的なご叱正・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(M.K.)

平成17年(2005年)3月

### 紀 要 第18号

編集・発行：財団法人滋賀県文化財保護協会  
滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2  
TEL (077)548-9780  
FAX (077)543-1525  
URL: <http://www.shiga-bunkazai.jp>  
E-mail: [mail@shiga-bunkazai.jp](mailto:mail@shiga-bunkazai.jp)  
印刷・製本 富士出版印刷株式会社